

山形県スポーツ推進計画に基づくトップアスリートの育成について

県教育委員会では平成30年に策定した「山形県スポーツ推進計画(後期改定計画)」において、トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立を基本方針の2つ目に掲げ、東京2020オリンピックメダリスト輩出に向け施策を展開し、5人の本県出身オリンピック選手を輩出した。残念ながら、オリンピックにおいて本県出身選手のメダル獲得はならなかったものの、その3カ月後にセルビアのベオグラードで開催された第21回世界ボクシング選手権において、岡澤セオン選手が日本人初となる金メダルを獲得し、県民に明るい話題を提供し、夢や感動を届けた。

1 メダリスト育成への支援・強化策の確立

山形県競技スポーツ強化事業

【国体や各種全国大会に向けた強化】

- 国体候補選手強化事業
- 国体直前合宿強化事業
- オフシーズン強化事業

年間を通して
切れ目のない
継続した強化の推進

KPI：天皇杯順位20位台
H28:26位、H29:31位、H30:34位、R1:32位、R2・R3:中止



今回オリンピックになった5人のアスリートはこの強化事業で育った！

例) 岡澤セオン選手(ホッケー) 岩手国体第3位(H28) 愛媛国体準優勝(H29)
中村 美樹選手(アーチェリー) 茨城国体第5位(R1)

オリンピック特別活動支援事業 (H29~R2年度4年間)

【対象】

オリンピックでの活躍・メダルの獲得が期待される

- ・選手個人
(日本オリンピック委員会または中央競技団体強化指定)

H29※	H30	R1	R2	※平昌冬季オリンピック対象者8名を含む(内、出場5名)
19	11	10	11	

- ・オリンピックの輩出が期待される競技団体として、県水泳連盟、県バドミントン協会、県スケート連盟を指定

世界選手権
金メダル

東京2020 オリンピック5名

- 岡澤セオン選手(ホッケー)
- 中村 美樹選手(アーチェリー)
- 三浦里佳子選手(水球)
- 鈴木 透生選手(水球)
- 高梨 健太選手(バレーボール)

本県ゆかりの夏季出場選手数

2020 東京	5
2016 リオ	2
2012 ロンドン	0
2008 北京	9

KPI：オリンピック選手の輩出、日本選手団の1%以上
東京2020オリンピック：0.86%

2 ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化

山形県スポーツ外発掘事業「YAMAGATAドリームキッズ」

【事業のねらい】

- オリンピックや国際大会等で活躍する選手の輩出
- 豊かな人間性を備え持つ本県次世代の牽引役を育成

【対象】

- 小学5年生～中学3年生
- 各学年30名 計150名
- H21～1期生は現在大学4年生(修了生198名)

発掘

選考会を実施
1次選考会9月
2次選考会11月

〈対象〉

小学3,4年生
〈選抜人数〉
30名

育成

○スポーツ教育プログラム
オリンピック等指導者による運動能力及び知的能力育成プログラム

〔講師実績〕

有森裕子氏(陸上)
葛西紀明氏(スノーボード)
伊調馨氏(レスリング) 他

全国での活躍

インターハイ延べ入賞数

年度	本県	修了生	※冬季これから
R3	40	11	※夏季中止
R2	21	0	※カヌー-悪天候中止
R1	57	6	※東北1H
H30	67	3	
H29	86	8	
H28	52	1	
H27	55	0	※1期生が高校1年生
過去平均	45	✓	※H20~26年度の平均

世界へ

○年代別日本代表の輩出
延べ23名

スキー/フィッシング/ボート
ラグビー/アイスホッケー等

○JOC強化指定選手の輩出
2名

ボート 鈴木伶奈
(2期生:大学3年)
ライフル 佐藤 琳
(4期生:大学1年)

パリオリンピック出場期待



3 今後の課題

次期山形県スポーツ推進計画策定に向け、R4年度、山形県スポーツ推進審議会にて検討。

1 高い競技力を持った選手の更なるステップアップ

【対策】JSC(日本スポーツ振興センター)やNF(中央競技団体)との連携を図りジュニア世代のパスウェイを構築

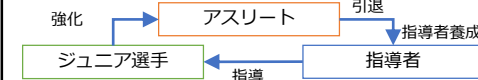
ドリームキッズ等の
本県ジュニア選手



JSCやNFの
ジュニア世代強化拠点

2 指導者の確保と育成

【対策】トップアスリートが引退後、指導者となる好循環の創出



3 カテゴリーに応じた強化のあり方

【対策】トップアスリート、次に続くアスリートへの重点強化

